

# 中学校 道徳 部会

部会長名 添田町立添田中学校 校長 井上 修一  
実践者名 川崎町立川崎中学校 教諭 加藤 睦都

## 1 研究主題

自らよりよく生きようとする生徒を育てる道徳指導  
～対話的活動の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の要請から

平成31年より現在の「道徳の時間」が「特別な教科 道徳」として新しくなる。その改訂の背景として以下の二点が挙げられる。一つ目に、現在社会問題となっているいじめの未然防止の観点から、「社会性や基本意識、善悪を判断する力、思いやりなどの豊かな心を育てることの必要性」である。今日スマートフォンや SNS の発達によりいつでも気軽に友達とコミュニケーションをとることができるようになった。しかし、その反面、匿名で悪質な投稿をしたり、SNS 上でのいじめや様々な悪質な問題が生じたりしていることは否定できない。この背景としては、「人間関係の希薄化」や、「自分の言動への責任感の欠如」などが考えられる。また、人間関係の希薄化は自分が他者に抱く「本音」を抑え、よりトラブルの少ない関係を築こうとする風潮がある。

そして二つ目として、「自ら考え、他者と協働しながらよりよい解決策を生み出していく力の必要性」が挙げられる。また平成27年7月に公表された「学指導要領解説 特別な教科 道徳」において、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める活動を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」という目標が示された。

本研究は、道徳的問題場面において、自分事として問題を捉えさせ、その考えを他者の考えと交流させる場面を多く持つ授業構成を用いることから、自分の本音を相手に伝え、相手の考え方を受け入れ自分の考えを深めることができる。よって自己を高め、他者と調和しながら生きようとする生徒を育む上で大変意義深いと考える。

### (2) 生徒の実態から

私が担任を務めるクラスにおいて道徳の授業に関するアンケートを行った結果、「道徳的問題を自分事として考えることができる」という質問に対し、65%の生徒ができないと回答(図1)、「友達と意見交流ができますか」という質問に対し、55%の生徒ができないと回答(図2)、「発表することが得意ですか」

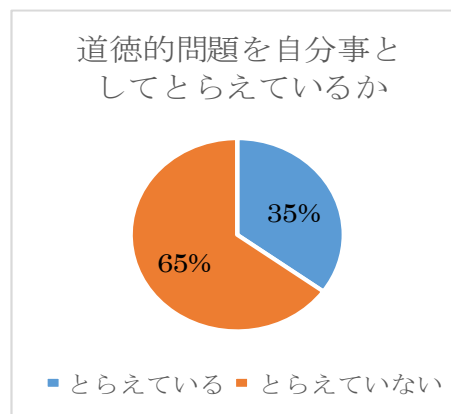


図1 [アンケートの結果]

という質問に対して、65%の生徒が得意ではないと回答している。(図3)

このアンケートの結果に加え、道徳の時間ではいつも決まった生徒しか発言しないという現状がある。そして机間指導などで生徒のワークシートを見ていると、発問に対して自分の考えが書けていない生徒や資料の中から答えを探している生徒が多数いる。

以上のアンケート結果と生徒の実態から、これまでのような資料を読み取ることに留まってしまう活動から、道徳的諸問題を自分事としてとらえ、授業に積極的に参加させることや、ただ自分の考えを全体場で発表するだけの形式から、ペアやグループの中で自分の考えと他者の考えを交流する活動を授業の中で設定し、その活動を通して、自分の考えを深めることや新しい考えに出会うことができるような活動を組み込んだ授業づくりが必要であると考え、本主題を設定した。

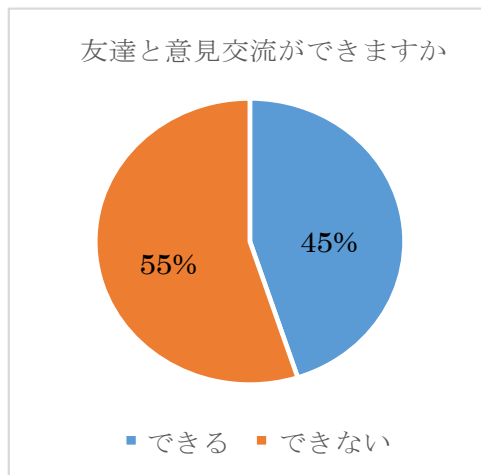


図2 [アンケートの結果]

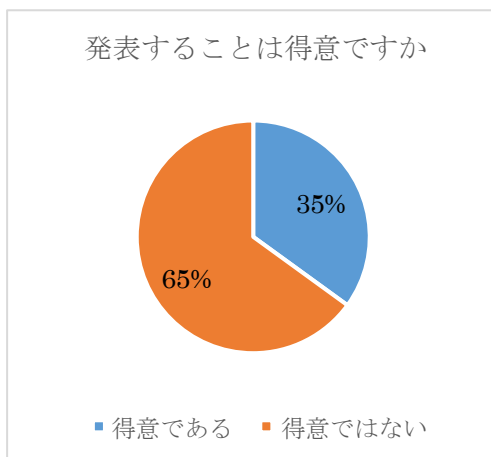


図3 [アンケートの結果]

### 3

#### (1) 主題の意味

「自ら」とは物事に対して意欲的に取り組み、よりよい方向へ追求していることとするのである。

「よりよく生きる」とは様々な問題に対して、自分ならこうするだろうというふうに主体的に考えることができ、そしてその考えを他者と交流させ、新たな発見や既存の考えを深めることができるようになることである。

「自らよりよく生きようとする生徒」とは、様々な問題に対して、積極的に自分事として考え、その考えを他者と交流することにより、新たな発見や既存の考えを深めることができる生

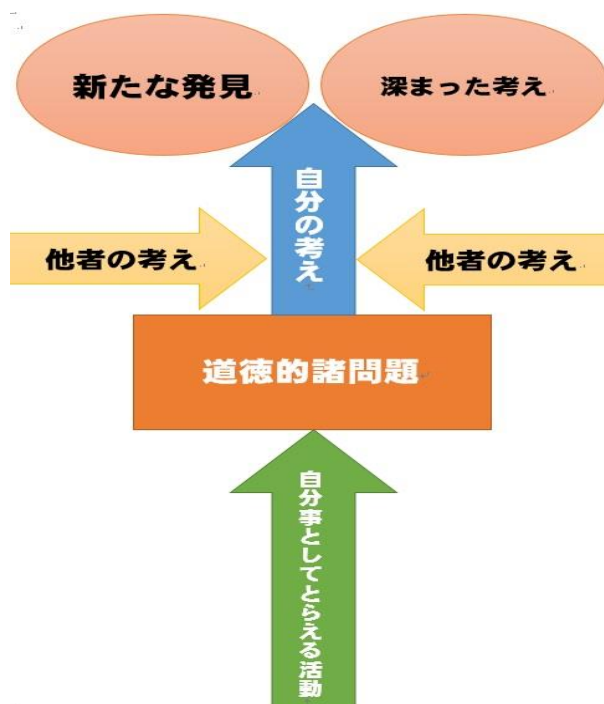


図4 [自らよりよく生きようとする生徒]

徒である。(図4)

本研究では、以下のような生徒の育成を目指す。

- 道徳的問題場面において、自分なりの考えを持ち、他者との交流によってその考えをさらに深めようとする生徒 (追求意欲)
- 道徳的価値のよさを感じ、問題場面において自他共に尊重し、よさを認め発揮し合えるような思考・判断をすることができる生徒 (道徳的心情・道徳的判断力)

## (2) 副主題の意味

「対話的活動の工夫」とは以下の一連の活動を道徳の時間に毎回組み込むことである。

- ① 道徳的問題場面において、「あなたならどうしますか？」のような発問や心情円盤を用いて自分事としてとらえさせる。
- ② ①の考えを記入したワークシートを近くの友達と交換することや、グループ内で自分の考えを紹介する。その後、「主人公の行動にタイトルをつけよう」などの発問に対し、グループ内でそれぞれ考えを出し合って、それを1つにまとめる活動を通して他者の様々な考えに触れさせる。
- ③ ①と同じ発問に対する考えと心情円盤を再び記入させる活動や、本時の感想を書かせることにより、自分の考えが授業始めと、終わりりでどのように変容したか、深まったかを考えさせる。

## 4 研究の目標

自らよりよく生きようとする生徒を育てるために、生徒が道徳的問題場面において、主体的に考え、その考えを他者と交流し、自分の考えを深める方途を明らかにする。

## 5 研究仮説

道徳の時間において以下の手立てを用いれば、様々な問題に対して、積極的に自分事として考え、その考えを他者と交流することにより、新たな発見や既存の考えを深めることができる生徒を育成することができるであろう。

- (1) 道徳的問題場面において、「あなたならどうしますか？」などと自分事としてとらえる発問を行い、自分の考えを心情円盤を用いて表現させる。
- (2) 小グループでの意見を1つにまとめる活動を設定する。
- (3) 自分の考えが授業始めと、終わりりでどのように変容したかをまとめる活動を設定する。

## 6 研究の構想

### (1) 道徳的問題を自分事としてとらえさせるための発問やワークシートの工夫

生徒に、道徳的問題場面において主人公の心情理解や、ものごとの良し悪しだけを考えさせるのではなく、「あなたならどうしますか?」・「主人公の行動に賛成ですか、反対ですか」など、現在の自分を主人公の状況に置き換え、考えをワークシートに記入させる。また心情円盤を用いて現在の自分の考えを数値化し展開後段で授業の始まりと終わりの考えの変容、深まりを比較しやすくする。【着眼1】

### (2) 自分の意見と他者の意見を交流させる場面設定

展開前段で自分事としてとらえた考えを交流させる場面を設定するために、隣同士でワークシートを交換してお互いの考えを説明する活動や、4人班の中で自分の考えを説明する活動を行う。そして班全員で一つの解決策や考えを創り出させるような工夫を行う。例えば「A・B以外にほかの選択肢はないのか」「主人公の行動のキーワードを考えなさい」などである。【着眼2】

### (3) 他者との交流をもとに自分の考えを深める活動

展開中段で他者との考えの交流において、自分とは異なる意見や、違う角度からの考えに触れたのちに、展開後段において自分の考えを深めるような活動を行うために、展開前段で行った発問と同じものを繰り返したり、感想書きの際に、そのような考えをもった理由を記入させる。そうすることにより、他者との交流をもとに自分の意見が深まったことや変容したことが実感できる。【着眼3】

## 7 研究の実際

### (1) 授業実践1の実際と考察

#### ア 授業の概要

主 題	「誠実な行動と責任」
ねらい	登場人物「健二」の具体的な行動や言動に着目して、自ら判断し行動した姿に共感させ、責任ある行動をとったときのすがすがしい喜びを感じさせる。
資 料	「裏庭でのできごと」 内容項目1—(3) 責任ある行動、誠実な生き方
教材の概要	本資料は、昼休みの学校の裏庭で鳥のひなを助けようとして誤って窓ガラスを割ってしまうという出来事が発端となる。窓ガラスを割ってしまい、それを先生に報告しに行く雄一、雄一が報告しに行っている間に誤ってもう一枚ガラスを割ってしまうが何も言えないでいる健二、その出来事をうまくごまかしてしまった大輔。健二は、よくないことを分かっている裏庭にサッカーをしに行ったり、ガラスを片付けようと思っても誘われてサッカーをしまったり、その場の雰囲気流されて行動してしまう。さらに、雄一に対して申し訳ない気持ちをもつ一方で、先生をごまかした大輔の立場も考えて、本当のことを言えないでいる。しかし、最後には先生に本当のことを言いに行く決心をするのである。

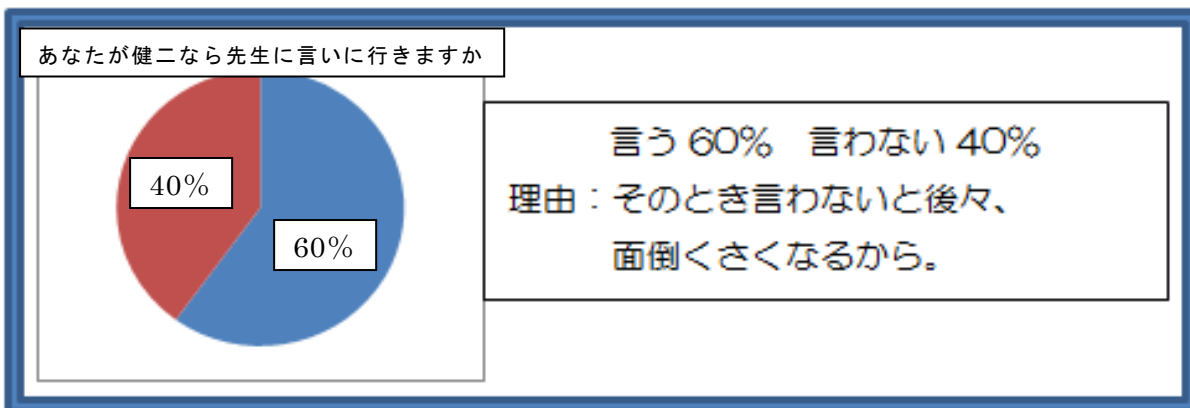
生徒の学習活動及び教師の発問	指導上の留意点
<p>1 生徒の日常生活を振り返り自分自身の行動を考える。</p> <p><b>【発問 1】</b></p> <p>窓際においてあったCDデッキに肘が当たり、落として壊してしまったが、誰も見ていなかったのもそのままその場を去った。これについて、どう思いますか。</p> <p>2 資料の前半を読み、考え方の違う二人の友人の間で揺れる健二の気持ちについて考える。</p> <p><b>【発問 2】</b></p> <p>あなたが健二なら先生に正直に言いますか。</p> <p>3 資料の後半を読み、健二が職員室へ行こうと決断させたものについて考える。</p> <p><b>【発問 3】</b></p> <p>健二に謝罪しに行くこと決断させたものは何だろう。</p>	<p>○ 「どうしてそう考えた」などと問い返しを行い、価値への方向づけを行う。</p> <p>○ 生徒の発表に共感し、すべての意見を大切にすることで、本時の発表が活発に行えるようにする。</p> <p>○ 道徳的問題場面において自分事としてとらえさせるために、まず心情円盤を用いて心の葛藤を可視化する。</p> <p>○ 他者と交流し、自分の考えを深めさせるために、まず個人で考えを書いた後に、4人グループを作り自分の考えをグループ内で発表する。その後グループで考えを1つにまとめるための話し合いを行わせる。</p>
<p><b>【発問 4】</b></p> <p>あなたが健二なら先生に正直に言いますか。</p> <p>4 本時の内容を振り返り、感想を書く。</p>	<p>○ 生徒の考えの深まりを見取るために、<b>【発問 1】</b>と同じ発問を行う。</p>

#### イ 授業の実際

展開前段では生徒に道徳的問題を自分事としてとらえさせるために、「あなたが健二なら先生に言に行きますか」という発問を行った。それに加え、自分の正直な気持ちを表すために心情円盤を用いて心の葛藤を表現させた。(写真1) 生徒からは(資料1)のように、「面倒くさい」などの本音が表れた。**【着眼 1】**



**写真 1** [自分の考えを記入する生徒]



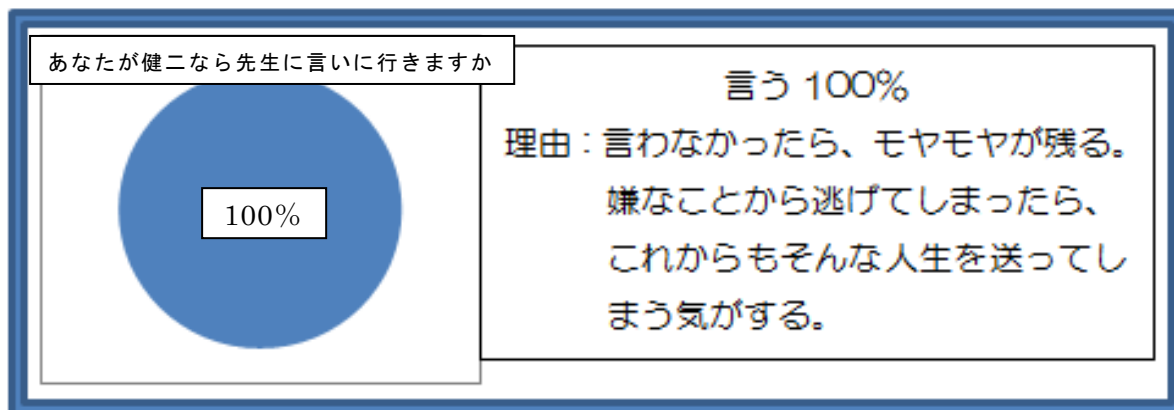
### 資料1 [生徒Aの発問1に関する考え]

展開中段ではグループで集まり、展開前段で考えさせた内容を他者に説明する時間を設定した。(写真2)そしてその後、「健二に謝罪しに行く」と決断させたものは何だろう。」という発問を行い、グループで意見を出し合い、それについて議論しながら一つの意見にまとめる活動を行った。お互いの考えを交流をしている生徒からは「なるほど」や「私なら～する」など活発な議論が行われ、普段全体の場では発表しない生徒も、グループ内で積極的に発言し、充実した交流を行うことができた。【着眼2】



写真2 [グループ交流をする生徒]

展開後段では、グループから個人へと形態を戻し、展開前段で行った「あなたが健二なら先生に言いに行きますか」という発問を再度行い、生徒の考えの深まりや変化などを見取った。(資料2)の生徒Aは「言う」の割合が大きくなっており、その理由も「面倒くさい」というものから自身の心情に関することや、これから先のことを考えて行動するというような変容が表れた。また(資料3)のように授業のまとめでも友達との交流で自分の考えを深めることができたという生徒がいた。【着眼3】



### 資料2 [生徒Aの発問1と同じ発問を再度行ったときの考え]

僕は自分の悪いところきちんと認め、責任をとることは当然だと思  
っていたし、授業を受けてもそれは変わらなかった。でも、友達と  
話をしてしっかり考え直して、より良い答えを出せた気がする。

### 資料3 [生徒が書いた授業の振り返り]

#### ウ 考察

##### ①【着眼1】について

心情円盤や発問の工夫により、多くの生徒に道徳的問題場面を自分事としてと  
らえさせることができたが、資料内の状況を生徒達が実際に生活していると近づ  
けて、本音を引き出しやすいような場面設定の工夫が必要である。

##### ②【着眼2】について

普段あまり発表しない生徒もグループ内で、自分の考えを伝えている場面が多  
く見られたが、話し合いの手順などを明確にしていなかったため、話し合いを効  
果的に進めることができなかった。

##### ③【着眼3】について

発問1と発問4で同じ発問を行い、さらにその間に友達との交流を入れること  
で自分の考えを深め、1枚のワークシートで考えの変容を見取ることができたが、  
その変容をもたらせた理由が他者との交流であるかどうかを見取ることができな  
かった。

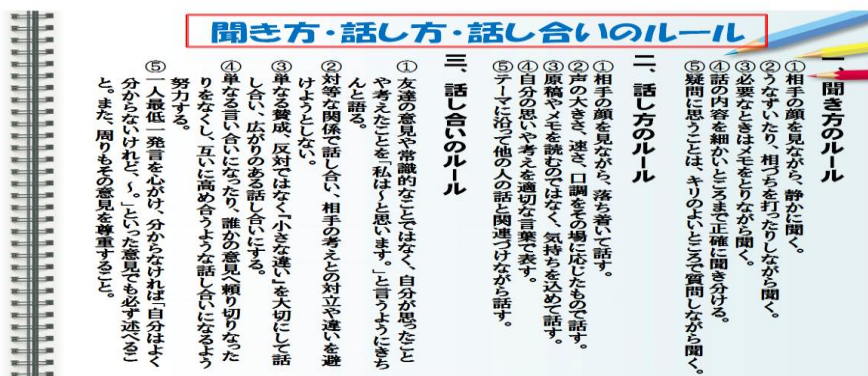
##### ④道徳教育実態調査より

「自分で考え、自分の意思で決定したことに対して、責任ある行動をとっている。」  
という質問に対して実践前では40%の生徒が肯定的回答だったのに対し、実践  
後では83%の生徒が、肯定的回答をしており、実践を通して生徒の価値を深める  
ことができた。

#### エ 実践2へ向けての改善点

話し合いのルールを明確化し、生徒に話し合いをスムーズに行わせるようにする。

(資料4)



### 資料4 [教室に掲示した話し合いのルール]

(2) 授業実践2の実際と考察

ア 授業の概要

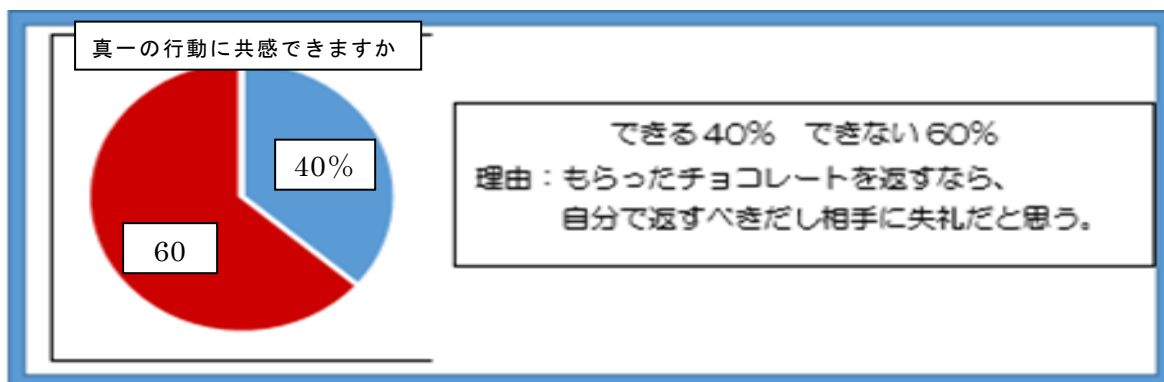
主題	「分かり合える人間関係」	
ねらい	異性の特性や違いを正しく受けとめ、ひとつの人格としてその尊厳を重んじようとする態度を育てる。	
資料	「あいつとセントバレンタインデー」 内容項目2—(4)正しい異性理解	
教材の概要	本資料は幼馴染である真一と夏樹の恋心に関するものであり、中学2年のバレンタインデーの日に真一はバスケットボール部の後輩 若松綾子からチョコレートを受け取った。しかし自分には夏樹がいて、そのチョコレートを親友の孝に返してきてもらうことにした。だが真一が他の女子からチョコレートをもらったことを聞いた夏樹は、真一のことを思っていたのは自分だけだと信じており、真一に裏切られたと感じ「さよなら」と書かれた手紙を渡す。真一はその手紙を読み、夏樹のことを理解できていなかった自分を責め、何とか誤解を解くために公衆電話から夏樹に電話をする。	
	生徒の学習活動及び教師の発問	指導上の留意点
1	これまでの生活を振り返る	
2	資料を読み、登場人物の行動について考える 【発問1】 真一と夏樹の行動に共感できますか。  【発問2】 公衆電話で話した後、手紙を書くことにしました。それはどんな内容ですか。	○ 道徳的問題場面において自分事としてとらえさせ、異性での考えの違いを見取るために、女子生徒には真一について共感できるかを考えさせ、男子生徒には夏樹について共感できるかどうかを考えさせる。  ○ 様々な考えに触れさせるために、男子と女子のグループに分け、どのような手紙を書くのかを考えさせる。  ○ 自分の考えを深めさせるために、グループでまとめた考えを全体で発表させる
3	本時の感想を記入する。	○ 1時間の感想を理由を含めて記入させる。

イ 授業の実際

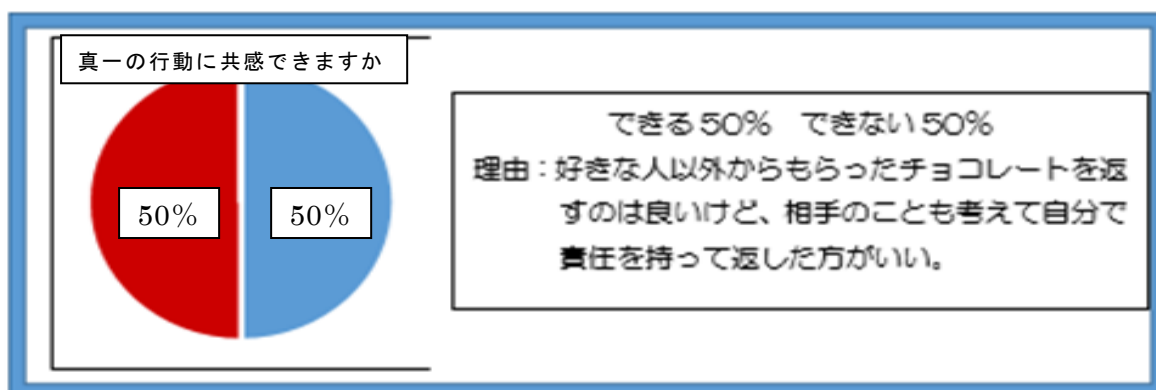
展開前段では、生徒にこの道徳的問題を自分事としてとらえさせるために「真一の行動に共感できますか」(資料5・6)・「夏樹の行動に共感できますか」(資料7・8)という発問を行った。それに加え、心の葛藤を表現させるために心情円盤を用いて、自分の考えを導き出させるような工夫を行った。真一の一連の行動に関しては共感できる生徒と共感できない生徒が分かれるような状況であった。また夏樹の一連の行動に関しては共感できないという生徒が男女ともに多い状況であった。

【着眼1】

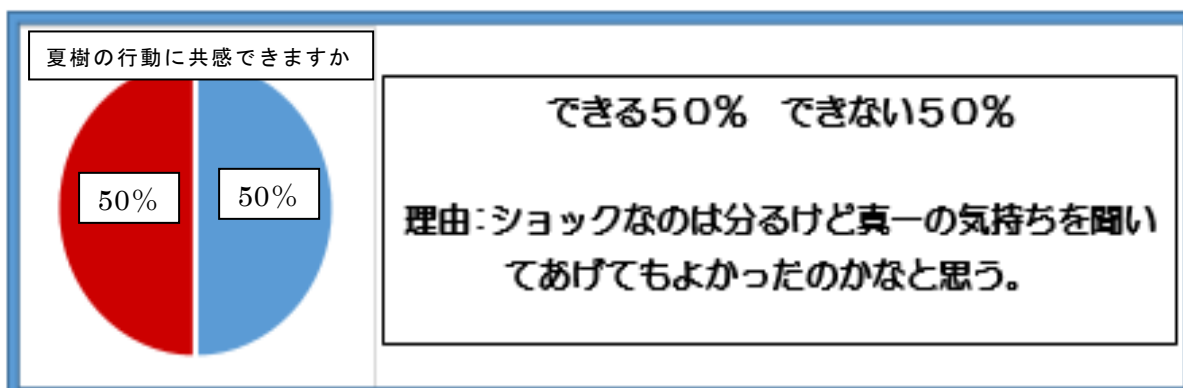




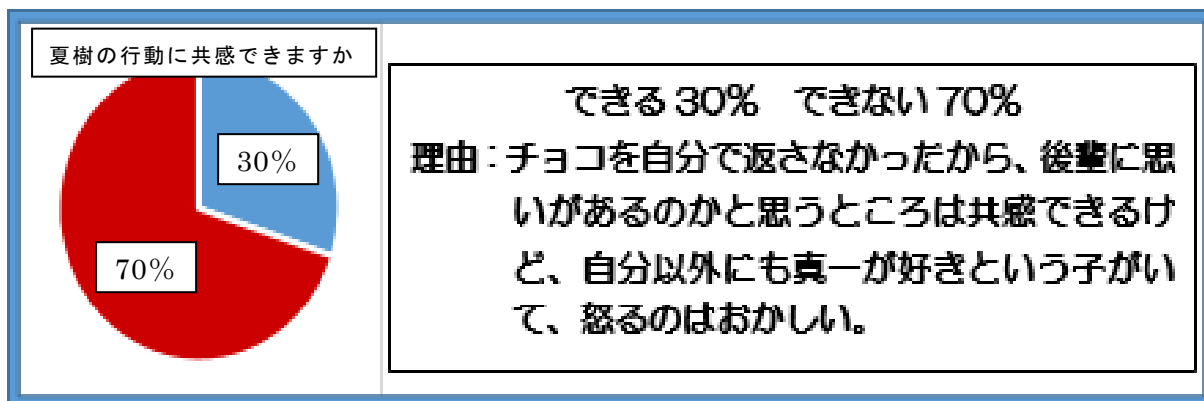
資料5 [発問1に対する男子生徒の考え]



資料6 [発問1に対する女子生徒の考え]



資料7 [発問1に対する男子生徒の考え]



資料8 [発問1に対する女子生徒の考え]

展開中段では、男子と女子のグループに分け、自分の意見をグループの中で紹介する活動を行った。そして、そのグループ内で議論を行うために男子のグループには「夏樹にどのような手紙を書きますか」（資料9・10）、女子のグループには「真一にはどのような手紙を書きますか」（資料11・12）という発問を行いグループ内で一つの意見を定める活動を仕組んだ。男子のグループでは、手紙をきっかけに誤解をとき、今よりもさらに関係を深めようとする記述が見られた。一方、女子のグループでは自分の行動に反省して謝罪を手紙で述べるものもあったが、この出来事をきっかけに真一のことを諦めるような記述もあった。男子と女子の手紙の内容の違いに驚いている生徒がたくさんおり、手紙の内容に関する質問タイムを設定し、男子グループからは「夏樹の誤解が原因なのに、別れを切り出すのはおかしい」など真一を守る意見が多く出た。一方、女子グループからは、「今まで真剣に考えていなかったのに、いきなり関係を深めようとするのは信用できない」などの意見がでた。このように充実した議論を行うことができたうえに男女での考え方の違いにも気付くことができる活動であった。【着眼2】

夏樹へ  
誤解させてごめんなさい。  
今度はちゃんと壁の気持ち伝えます。  
資料9 [発問2に対する男子グループの考え]

夏樹へ  
許してください。夏樹の事だけを考えて  
後輩にはチョコを返したんだ！！

資料10 [発問2に対する男子グループの考え]

真一へ  
勝手に怒ってごめんね。  
これからも今まで通り仲良くしてください。

資料11 [発問2に対する女子グループの考え]

真一へ  
片思いのままだったら、願いは叶わんし、  
バカバカしいから、真一のこと諦めるね。  
今まで通り友達のままいきましょう。

資料12 [発問2に対する男子グループの考え]

展開後段では自分の考えを持つことや他者との議論において感じたことや、感想を、考える理由とともに書かせ道徳的価値の定着を図った。(資料13)の生徒のように自分とは違う考えに触れ、新しい発見をしたと述べている生徒もみられた。【着眼3】

今日の道徳の授業の中で班で意見を出しているときに、自分が考えもしていなかった意見が出てきたりして、男女では考え方が違うところがあるのだなと思った。

### 資料 1 3 [生徒が書いた授業の振り返り]

#### ウ 考察

##### ①【着眼 1】について

着眼 1 においては、心情円盤や発問の工夫により、多くの生徒に道徳的問題場面を自分事としてとらえさせることができたが、異性理解に興味を示さない生徒もいたため、そのような生徒には自分事としてとらえさせるのは困難であった。

##### ②【着眼 2】について

全ての生徒がペアやグループ内で自分の考えを他者に伝えることができおり有効な活動であったと考える。

##### ③【着眼 3】について

着眼 3 においては、最初に持った考えと、他者との交流後の考えを比べて、考えが深まった、新しい考えに出会えたという感想を持った生徒がいたが、その変容をもたらせた理由が他者との交流であるかどうかを見取ることができなかった。

##### ④ 道徳教育実態調査より

「自他をかけがえない人間として考え、他の人々に対し、思いやりの心を持っている。」という質問に対して、実践前では 45% の生徒が肯定的回答だったのに対し、実践後では 87% の生徒が肯定的回答をしており、実践を通して生徒の価値を深めることができた。

## 8 全体考察

### (1) 積極的に自分事として考える生徒について

(図 5) のアンケート結果より、多くの生徒は実践前の段階では、「道徳問題場面において、自分事として取られることができるか」という質問に対し、35% の生徒ができると答えていた。実践後には 87% の生徒が自分事としてとらえることができたと答えている。(資料 1 4) の生徒の感想にも授業を通して自分事としてとらえることができたという記述があった。この結果は道徳的問題場面において、自分事としてとらえさせるために「○さんの行動に共感できますか」などの発問を行い、さらに心情円盤を用いて心の葛藤を表現させたことが有効であったと考える。

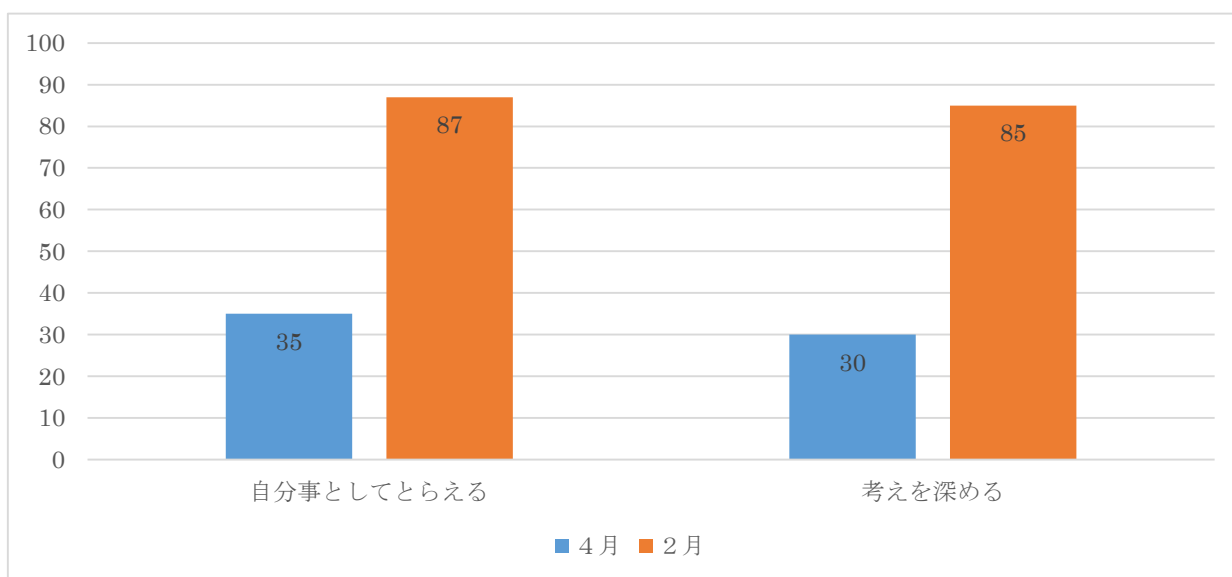


図5 [実践前後でとったアンケートの結果]

道徳はとても考えさせられます。もし、私が今このような状況ならどうするだろうなど、深く考えることができました。

資料14 [実践後の生徒の感想]

- (2) 様々な考えに触れ自分の考えを深める生徒や、新しい考えを発見する生徒について同じく(図5)のアンケート結果より、「他者との交流をもとに自分の考えを深めることができるか」という質問に対して、実践前の段階ではできると答えた生徒は30%であったが実践後には85%の生徒が自分の考えを深めることができると答えている。また(資料15)の生徒の感想には、他者との交流を通して自分の考えを深めることができたという記述があった。この結果は自分の考えを持った後に、その考えを他者と交流する場を設けたことや、グループ内での交流活動の際に、男子と女子での考え方の違いや、心情図の割合は同じだが、その理由が異なるなど、新しい考え方に会うこと機会を設定したことが有効に働いたと考える。

相手の気持ちを考えたり、その立場になって考えたり  
色々な気持ちを考えることができました。友達の考えも  
知ることができ新しい発見をすることができました。

#### 資料 15 [実践後の生徒の感想]

### 9. 研究の成果と課題

#### (1) 研究の成果

- 道徳的問題場面において心情円盤や発問の工夫を用いることで、積極的に自分事として考える生徒の姿を具現化することができた。
- 他者と考えを交流し議論する活動を設定することで、様々な考えに触れ自分の考えを深める生徒や、新しい考えを発見する生徒の姿を具現化することができた。

#### (2) 今後の課題

- 他者との交流の際に、友達とコミュニケーションを取ることが苦手な生徒への事前の対応が必要である。
- グループ内での議論を活性化させるための、交流のフォーマットを定着させる必要がある。

#### <参考文献>

- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』平成20年9月25日  
日本文教出版
- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』  
平成30年3月5日 教育出版